

令和6年度 学校評価書

令和7年3月22日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

I. 経営の重点に関すること

	目 標	自己評価	
		具体的取り組み	最終評価(A～C)
重点目標 (産業人としての知識・技能修得、豊かな人生観を熟慮させる)	○ 中学は多くの外国人と交流し実践的な英語や英検の資格取得を目指す。また、城南静岡高校に進学し、より高度な資格取得や数学、国語などの科目の実力向上に努める、大学へ進学し専門知識を身に着けることにより、卒業後の将来の目標も創り上げていく。 ○ 高校ICT科については多くの資格取得を目指すだけでなく、地域貢献や探究活動にも力を注いでいく。家庭学習においても、毎日こつこつ勉強が出来るように指導する。 ○ 高校普通科、特に3年生はセンター試験から共通テストに代わり、内容は簡単ではあるが、文章を読み込んでいく必要がある。今年は特に情報処理の問題は落ち着いて問題を読んでいけば高得点につながる問題になっているため、何度も繰り返し練習し、確実に点数のとれる指導が必要である。家庭学習は常に目標とする進路先の出題形式や内容を意識させる。 ○ 部活動は夏の暑期中、熱中症の心配があり、給水や休憩をしっかりとって練習が出来るように考えておく必要がある。 ○ コロナ後、制限の多かった生活から、まだ、復活していない生徒もいることを理解しておくべきである。楽しく学べる学校を目指す。合唱や集団行動等、この数年間で衰えてきた活動を復活させる。 教員の情報処理能力を向上させる。	○ 中学は多読やプレゼンの授業を生かし、海外への修学旅行や海外からの学校見学への対応、交流行事への参加等、実践的な英語の活用を目指す。 ○ 高校ICT科の検定資格取得について生徒個人の進路目標や試験内容にあった設定で指導を行う。 ○ 普通科高校3年生は幅広く実践的な問題で基礎問題が安定して出来るようにする事。論理的知識を身に着け一般生活の中で使えるようにしていく。常に進路を意識させ生徒の個別の目標に合わせ内容を確認していく。共通テストの模試を取り入れ、今年度の問題形式を考え、家庭学習に目的意識を持たせる。 ○ 部活動は短い練習の中で短時間で効率的な練習が必要となってくる。その他、運動部文化部にかかわらず、毎日生徒一人ひとりに声をかけ、心が折れないように前を向いて行動できるように心がける。 ○ コロナ禍で規制の多い3年間を過ごしてきた生徒です。自分たちが経験したことのない時代を過ごしてきました。そのため出来ないこともあることを理解し、元気なところや明るい所が表現できるように見守ることも大切です。外で大きい声が出し、大きい声で歌や発表が出来る機会を作っていく。	B 今年度も普通科が全員共通テストを受けることが出来ました。ただし、共通テストを使い受験する生徒と共通テストを使わない生徒で取り組み方にかなり差が出ました。全国的には多くの科目で平均点が安定してきていますが、情報の平均点が高く平均点を超えてもどう評価されるか心配です。いずれにしても全科目で暗記だけにとらわれず、しっかりとした幅広い知識と論理的な考え方が必要になってきたと思います。学校、教員、生徒に問われることは、社会で通用する学習が出来ているかどうか。選択問題ではなく文章を読み込んで理解し、書き出す力があるかどうか。しかも進んでそれが出来る事が重要です。ICT科では多くの生徒が今まで以上に検定資格を取得し、希望の進路を決めています。1年次から目標を見失わずよく努力してきた結果だと思っています。中学生はコロナが終わり、海外からのお客様との交流が劇的に増えました。忙しく大変な1年でしたが、充実した1年だったと思います。今年度は他校でも資格を数多く取得できた生徒が増えています。本校でもコロナ禍で自学自習が出来た生徒が増えたのかと思います。今まで教員が付きっきりで合格率を挙げてきたものを、教員が生徒に対し自学自習の大切さと生徒が前向きに努力するように話をしてくれています。生徒も時間の大切さや効率を重視して頑張ってくれています。生徒にはその時々状況に応じた講習や補講等を行い対応しましたが、先生方への講習も今後さらに増やしていきたいと考えています。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	少子化が今後もますます進行して行きます。学校の特色を出してこれからも邁進してもらいたい。

令和6年度 学校評価書

令和7年3月22日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

Ⅱ. 各部・領域等に関すること

	自己評価		
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
教務部	○資格取得・検定勉強対策 ○基礎学力の向上 ○道徳教育の充実 ○地域貢献教育への取り組み	ICT科では、商業科目の検定対策として特別講習と強化週間を年間2回ずつ設け、取得率の向上に取り組んだ。普通科では、基礎学力の定着に励み、学力の向上を図った。また、探究活動にも取り組み、市内を中心にフィールドワークを実施し、伝統産業を学び、問題点や解決策などを探究した。 地域貢献教育の一環として「静岡ホビーショー」と「しんきんフェア」に高校3年生ICT科が参加し、企業のサポートをした。また、デジタルアレンジコースでは、プロジェクションマッピングに挑戦し、地域住民の方に楽しんでもらえるイベントの企画・運営を行った。	A 取得資格では、7年連続で税理士試験の簿記論に1名合格することができた。他にも、全経簿記上級に1名、ITパスポート試験に2名合格するなど、全国でもトップクラスの実績を残した。また本年度の卒業生では、全商3種目以上1級合格42名を輩出し、数多くの資格を取得し卒業させることができた。 「静岡ホビーショー」と「しんきんフェア」では、受付をはじめ物販のサポートや会場周辺の警備、小学生の案内誘導補助など様々な仕事を経験することができ、企業とのつながりを深めることができた。 また、デジタルアレンジコースで学んでいる動画編集では、校舎に映像を描写し、近隣の住民や学校説明会に訪れた中学生と保護者に好評を得ることができた。
生徒指導部	○基本的な生活習慣の徹底 ○校内外での安全管理 ○愛される学校作り	日常的な生活指導に加え、登下校時における交通指導やマナー指導、校外巡視の定期実施など校内外における風紀指導、定期的な服装・頭髪検査や遅刻者の調査・改善指導等を実施した。また、文科省で発表された新生徒指導提要に沿った校則の見直しや本校における教育課題への対応を検討した。	B 今年度は全体を通してまだまだ満足のいく成果とはいえないが、多様化している指導課題に対して苦慮しながらも教員一丸となって取り組んでいる。時代の潮流に合わせた積極的な校則の見直しを実施し、通学バッグの自由化や防寒着の自由化など校内外からも一定の評価を得ている。管理と指導という側面から、共感と支援という指導観に移り変わる中で、発達支持的生徒指導を念頭に置き、教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけを意識し、日々の指導に当たっていきたい。今後も城南生としての在り方・愛される学校づくりを念頭に掲げ、より一層生徒指導に邁進していきたいと考える。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	生徒の活躍は新聞等で拝見しています。教員一人ひとりの協力のもと、これからも資格取得などの本校独自と特色ある教育をお願いしたい。
B	言葉一つとってもハラスメントが叫ばれる時代となりました。その中で生徒指導は大変だと思いますが、生徒一人ひとりに愛情を持って接することがたいせつだと思います。

令和6年度 学校評価書

令和7年3月22日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価			
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
進路指導部	○卒業生全員の進路実現 ○1, 2年生の進路意識の高揚 ○学問探究心、職業観の育成	3年次の進路実現に向けて、1, 2年次から体系づけて指導を行っている。 小論文講習や面接講習などを初めとするさまざまな講習を対面で実施した。特に、小論文はその後の個別指導においても専門教科に具体的指導をお願いし、継続的に「書くこと」の習慣づけを行った。 進路ガイダンスは、前年まで感染症対策を盛り込んだ配置を行っていたが、今年から例年並みの規模で参加校配置をし、動線等も考慮した形で開催することができた。 夏休みや土日を活用したオープンキャンパスツアーを実施し、県内外の有名私大や専門学校の比較研究を呼びかけた。高校3年生の進学予定者の傾向として総合型選抜や学校推薦型選抜を活用する生徒が多く見られた。 選抜方法が小論文に加え、基礎学力検査、口頭試問、プレゼンテーション発表など多種にわたった。早くから準備を開始し、長期的に個別指導を徹底して行った。	B 多くの生徒が自らの適性について熟考し、目標とする進路に向けて活動し、決定することができた。 進学希望者は、年内入試から果敢に挑戦し、成果を残した。上位私大へチャレンジについては、全商推薦や総合型などを活用し合格を果たしている。 今年度は、関東のみならず、関西圏への進学が増加した。 専門学校の進学希望者は微減、国家資格を必要とする医療系への進学、情報系の分野への進学は依然として多かった。また、企業奨学金を活用できる自動車整備系の専門学校への進学者が増加した。総合型選抜、学校推薦型選抜の実績を上げていくためには、今後も個別対応して継続的な指導に力を入れる必要がある。 また上位校への総合型のチャレンジに苦戦した。他校の総合型選抜の利用も増えていることから、倍率が高くなったといえる。そのため、前年度の倍率や選考内容の調査を進め、次年度に活かしていきたい。 就職は求人倍率も高かったため、41名の就職希望者の内定率は高かった。就職希望者は、早くから見学会に複数参加し、活動していくことができた。 また、今年度から履歴書の作成が手書きからPC入力が可能となり、事務的作業の効率化が図られた。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	学校を訪れた際にロビーに掲示してある進路先を拝見し、数多くの進学者、就職者を輩出した年だとわかりました。また、進学については例年以上に難関大学に進学しており、1年間の指導の賜物であると感じました。

令和6年度 学校評価書

令和7年3月22日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価			
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
保健厚生部	○心身の健康保持増進 ○感染症対策 ○職員が働きやすい環境作り	・生徒及び教員に対し、各感染症への予防・対策を呼び掛けた。 ・生活習慣病への正しい理解を深めるため、新たにがん講座を実施した。 ・薬学講座では、薬物への正しい知識を生徒に身につけさせた。 ・職員忘年会を5年ぶりに実施した。 ・職員給水機の掃除の頻度を多く実施し、衛生状態を維持した。	B ・感染症の拡大が例年に比べると落ち着いた年となり、本年度は学級閉鎖をすることなく終えることができた。いろいろな行事も、感染症に関する制限が大きく緩和された状況下で実施することができた。一方で、感染症の予防に対する認識が薄れ、各教室での換気や、生徒各々でのうがい、手洗い等の基本的対策が実践できていない状況が多分に見受けられる。来年度は、コロナ過同様の呼びかけを実施していかなければならないと考える。 ・働きやすい環境づくりの為に、忘年会を5年ぶりに実施し、職員が参加しやすい宴会の場を提供したつもりであったが、批判も多々あり、改善しなければならないことも浮き彫りになった。本年度は職員に対してアンケートをとり、より多くの職員が参加できるような会を提供したいと考える。
	○生徒の興味・関心を援助し、社会性・創造性を育てる ○より高いレベルの大会等で結果を残す	基本的生活習慣の育成を柱とし、厳しさの中にも慈愛に満ちた指導を心掛ける。 運動部においてはスポーツをする楽しさや喜びを忘れず指導にあたる。 文化部においては芸術系や学問系の技能向上を自発的・自主的に活動できるような指導にあたる。	A 全国大会に出場した部活動があり(水泳・新体操・体操・ボクシング・簿記)、活発な活動することができた。高校では水泳部がオーストラリアで開催されたジュニアパンパシフィック大会で個人第3位、新体操部が全国高校総体で団体第3位と東海高校総体で個人第2位、中学では水泳部と新体操部が東海中学総体で団体優勝、体操部が東海中学総体で団体準優勝、水泳部が東海中学総体で個人第2位と、今年度は水泳部・新体操部・体操部の活躍が目立った。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
B	通常の日々が戻りつつありますが、多くの生徒が在籍していることから、いつどんな時に病気が蔓延するかわかりません。感染症はなくなったのではなく落ち着いてきているということを考え、生徒だけでなく職員の健康面を注視してください。
A	部活動も社会体育に移行するようであり、学校での指導がますます難しくなってくると思いますが、これからも学校の良さをアピールし、生徒が頑張れる環境を整えてください。

令和6年度 学校評価書

令和7年3月22日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価			
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
教職員の資質向上	○様々な事情の生徒への対応力を身に付ける	教職員は、豊かな知識や識見、幅広い視野を持ち個性豊かでたくましい人材や特定の教科や指導法についてより高い専門性を持った人材である必要があるため、日々アップデートが必要な職業である。本年度は、校長からの意見を取り入れて「金融について」というテーマで静銀ディーエム証券の数崎様を講師に職員研修を実施した。近年の法改正により投資が身近な存在になった現在、そのメリットやデメリット、今後の展望などを講義いただき、人生設計で欠かすことのできないお金についての知識を身につけることができた。	B 本年度は8月に予定していた教員研修が、台風の影響により12月に延期され、毎年2回開催していた研修が1度しか実施できなかった。また、教員の生活にはつながる研修であったが、生徒へのフィードバックにいかしづらいことなどを踏まえて上記の評価になると判断した。来年度は、生徒指導に活かせる研修を企画したい。
保護者との連携	P T A役員と連携して保護者との連絡を密にして行きたい。	P T A総会や学園祭等の様々な行事を通じて、保護者の足を学校に向かせるように心掛ける。	A 今年は多くのイベントが行われ、保護者を含めた来場者が多くあった。
地域との連携	○学校行事等の地域の方の参加を促す ○地域のイベント・地域企業のイベント等の参加 ○学校施設の貸し出し	例年のプロジェクション・マッピングが地域の方々に受け入れられ、本年度も多くの動員があった。また、駐車場やプール、テニスコート、体育館などを市や駿河消防署、外部団体に貸し出しをした。地域の防災会議に数回参加し情報を共有した。	A 通常の学校に戻り、いろいろな催し物を実施し外部の催し物にも参加して新聞等にも紹介された。地域の方々だけでなく外部からの電話等賞賛を受けた。
施設・設備	○新入生に情報機器の貸し出し ○本館補修工事 ○備品の入れ替え	本年度もICT科の生徒にノートパソコン、普通科・中学生にiPadの貸出を行った。その他、本館サッシのフィルムの張り替えや屋上の防水工事など生徒が快適に過ごせるような工事を行った。	A 本年度も新入生に情報機器を貸し出すことができた。本館について18年が経過しあちらこちら修理が必要となってきた。外壁補修工事などの大規模工事を行う計画を立てるときに来ている。今後とも管理をお願いしている建築事務所とも相談して適切な処置をしていきたい。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
B	報道等で学校の不祥事が多く見られた年だったと思います。他校の話と考えると、職員の指導については特に注意を払って実施していただきたい。しっかりした職員のもとにはしっかりと生徒が育ちます。
A	実際に行事に参加させてもらって充実した1年間だったと感じました。
A	引き続き連携を進めるように各団体と話をしたい。また、災害時の対応等も地域と密にお願いしたい。
A	生徒の安全第一を考えて必要に応じた工事を進めてもらいたい。

令和6年度 学校評価書

令和7年3月22日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

学校からの経営のまとめ(成果と課題)	
A	この年度の生徒は、部活動でも勉強面でもよく頑張った生徒が多く、コロナ禍での自学自習がプラスに働き積極的に勉強が出来るようになったと思われます。コロナ禍で自宅待機になった時に出来た登下校の時間帯を勉強時間に充てる習慣が隙間時間を有効に使い勉強時間が増えたと思います。朝の挨拶を見えていますとしっかりお辞儀をしてくれます。コロナ前の生徒よりも相手に対して挨拶が見えるように、聞こえるように、目線や顔の表情が見えるように心がけてくれています。まだ、昨年に続き今年も校歌や校訓のように皆で一緒に大きい声というのは難しいようですが、無理せず時間をかけてもとに戻していきたいと思います。表現力は以前よりも進歩したように思います。以前より礼儀正しいように感じます。卒業後社会に出ると生徒はプレゼン能力が問われるようになります。本校は以前からそのための知識も授業で養ってきました。そしてコロナ禍で発信する能力だけではなく聞く能力も必要だと知りました。頷いたり手を動かしたりするだけではなく顔の表情や目線がしっかりしていることが大切です。最近是他校でも多くの学校がプレゼンに力を入れて素晴らしい成果をあげています。本校では今後、自ら進んで考え行動する能力と相手の事を考えて話をする事の出来る能力を培っていききたいと思います。服装を整え礼儀を理解した生徒とともに未来を考えていききたいと思います。

まとめ	
A	少子化がさらに進んでおり、学校の特徴を全面的に打ち出すことが今後の経営においてさらに重要になってくると思います。その上でコロナ禍で各校とも同じような対応しか取れなかった数年間から脱却し、学校内外ともに新しい展開ができることを期待したいと思います。